

妊娠中から産後の薬について①



《妊娠中のお薬について》

妊娠中にお母さんが薬を飲んでいることで赤ちゃんに影響がある薬は、ほんの一部といわれています。妊娠中であっても必要があれば薬を使います。

自己判断で薬をやめてしまいお母さんの体調がよくないと、児に影響してしまうこともあります。薬の服用に関しては、医師や薬剤師に相談してください。

*市販薬は安易に使わないようにして、まず相談しましょう。

ドラッグストアなどで購入できる薬は通常の使用量では比較的安全ですが、色々な症状に効くように多種類の成分が含まれているものもあります。

インターネットなど、ご自身で手に入れられる情報はすべての方にとって適切とは限りませんので、注意してください。

*抗生物質は指示通りに服用することが大切です。

抗生物質は医師が必要と判断した場合に処方されます。

指示通りに服用しないことで、妊娠経過や胎児に悪影響を及ぼす可能性があるため、指示を守って、服用してください。

*鉄剤（貧血の薬）は継続して服用することが重要です。

妊娠の経過に伴い血液中の液体成分(血漿)が増加するため相対的に薄まった状態になったり、赤ちゃんの発育に鉄分が使われることで、貧血になることがあります。

貧血を改善するために必要な鉄剤は、指示された期間を守って、服用してください。

*便秘を放っておかないようにしましょう。

妊娠によるホルモンの変動や、大きくなった子宮の影響で腸の動きが悪くなる場合があります。食事だけでうまく調整できない場合は下剤を使用することができます。

体調にあわせて薬の種類や量を調節できますが、刺激性の薬は使い過ぎると子宮の収縮を誘発することもありますので、注意してください。

- 酸化マグネシウム：腸の水分を増やして、便を軟らかくする
- ピコスルファート：刺激性の下剤、腸を動かして排便を促す
- 整腸剤：腸内細菌叢（ちょうないさいきんそう）を整える

妊娠中から産後の薬について②

*鎮痛剤（飲み薬、貼り薬(シップ薬)、塗り薬など）は、注意が必要です。

- カロナール(アセトアミノフェン)
妊娠中比較的安全に使用できる薬です。
- ロキソニン、ボルタレン、イブプロフェン等
妊娠中期～後期に使用すると、胎児に影響を与える可能性があります。
むやみに使用せず、医師や薬剤師に相談しましょう。

《授乳中のお薬について》

お母さんが服用する薬の多くは、その成分が母乳に移行することがわかっています。
しかし、多くの場合、その量はごくわずかで、母乳を通じて赤ちゃんの体に吸収される薬の成分はその一部分に限られます。

そのため、薬を飲んでいても、安全に授乳できると考えられています。

また、メーカーや薬局からの情報紙に「薬を飲んでいる間は授乳を避けること」と記載されていても、必ずしも赤ちゃんに悪い影響があるわけではありません。

心配なときは医師や薬剤師にご相談ください。

妊娠中、授乳中ともに薬を使用してはいけないというわけではなく、必要に応じて薬を飲むことが重要です。
お母さんが健康であるために薬を服用することが、赤ちゃんにとって良いこともあります。
必要な薬はきちんと服用し、元気に過ごせるようにしましょう。



妊娠中や産後の薬についての疑問や不安、
体調の変化で気になることがあればお気軽にご相談ください。

「お薬相談外来」では、医師と薬剤師が個別に相談や不安に応じます。
ぜひ、ご活用ください。